

めざす子ども像

自信を持ち、何事にも挑戦する 園児・児童・生徒の育成

取組目標

「地域力によって育成する心豊かな子ども」

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症により、本校区活動の柱である「歴史ウォーク」「平城高校生と遊ぼう」「図書室開放」のうち、「歴史ウォーク」「平城高校生と遊ぼう」が中止になりました。特に平城高校最後の年に開催できない事は大変残念でした。また、地域に図書室を毎月開放している「図書室開放」も感染の状況によって開催できなかった月もありました。

そんな状況の中、地域と園、学校が関係を途切れぬようにするにはどうすれば良いか模索し、地域の方々のアドバイスにより毎年3回行う地域教育協議会をZOOMによるオンラインで開催することにしました。

オンラインによる会議に参加したことはあっても、開催した経験がないため、業者の選定、委員の方々のアドレス管理、安定したネット環境など不安になることもありましたが、地域、学校と知恵を出し合い今年度は2回開催する事ができました。

今後、予期せぬ出来事で地域教育協議会委員の方々と直接会うことが出来なくても、こうやってオンラインで顔を合わせ話せた事は、本校区にとって大変大きな一歩でした。



【今年度のまとめ】

「コロナ禍だから」ではなく、「コロナ禍だけど」と発想を転換し、できる事を無理なく行ったことで、新たな方法を生み、地域と学校がより強固なものになったと感じています。

また、本校区が目指す子ども像にもある「何事にも挑戦」したことは、地域力を高め、今後の子ども達の育成活動にも生かされると考えています。

【来年度に向けて】

今年度できなかった活動を、「コロナ禍」であってもできる方法を模索し、子どもたちが心豊かに育つようにしたいと思います。

また、今まで以上に子どもたちが本校区を誇りに思い、自慢できる取組を進められればと考えます。

めざす子ども像

自信を持ち、何事にも挑戦する 園児・児童・生徒の育成

取組目標

「地域力によって育成する心豊かな子ども」

【今年度の取組紹介】

家庭科の被服実習に地域の方に実習サポーターとして来ていただきました。実習の際、思うようにミシンが動かない、次の作業がわからないなど何かあった時、すぐに、教員に頼ることが出来ず、時間をただやり過ごすだけでしたが、サポートに来ていただいたおかげで、分からないこともすぐに聞け、納得できるようになりました。また、それが子どもたちを、実習嫌いにさせない事になるだけでなく、近所の方が学校へ来て教えてくれる安心感も増し、子どもの学びを地域の方々が支えてくれた瞬間でもありました。



また、音楽の伝統楽器に触れる内容で地域の方に和太鼓の講師として来ていただきました。中々普段このような伝統的な楽器に触れる機会がないため、子ども達も熱心に講師の先生の話聞き、一生懸命太鼓に向き合っていました。授業中の静かな校舎に響く和太鼓の音色はとても迫力があり、音が一つになった瞬間の子どもたちの晴々とした表情は忘れられないものになりました。



【今年度のまとめ】

子ども達は地域の方々に、学校活動を通して様々な学びを得ています。それが地域に守られている安心感と、自信になり、地域を誇れる事に繋がると実感できました。
この取組を今年度だけではなく、継続して行いたいと考えます。

【来年度に向けて】

今年度の学習支援だけでなく、子ども達が率先して自分たちのアイデアや考えをまとめ、地域に貢献できるような取組を模索していきたいと考えます。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

**地域の方々に支えられていることを実感しながら、
児童が主体的に学ぶことができるための環境整備と取組の充実。****【今年度の取組紹介】**

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの取組が中止または多くの制約を受ける状況となりました。その中でも、感染症対策を講じながら、地域の方々と協力して取り組みました。

○学習支援事業（2年 体験学習「芋掘り体験」「収穫祭」）

2年生の栽培体験学習として地域の方々の手を借りながら、さつまいもの苗を植え、お世話し、収穫し、焚火から焼き芋を作る体験学習を行いました。自分たちの手で土を触り、作物を育てる活動を通じて、地域の方々と交流を深め、人との付き合い方を学ぶ貴重な場にもなりました。



○環境整備事業

「一人一鉢栽培活動」と称して、花いっぱい、緑いっぱいの素晴らしい環境づくりに、全校で取り組みました。植物を育てる喜びや大切さ、生命を愛おしむ心が育まれる良い機会となりました。



○図書環境整備事業

図書ボランティアのみなさんが、季節の掲示物で図書室を飾り付けしてくださり、すてきな環境読書に取り組みました。また、北部図書館の司書の方と連携し、様々なジャンルの本を紹介してもらったりすることで、子どもたちの読書意欲も高まりました。

【今年度のまとめ】

○学習支援事業では、実際に触れ、自ら経験する貴重な機会となりました。様々な方との触れ合う中で、コミュニケーション力や仲間と力を合わせて協働する力を身に付ける良い機会になりました。

○図書環境整備事業では、取組がしっかりと根付き、休み時間も本に触れる児童が数多くみられました。また、図書室の整備も進み、様々なジャンルの本に親しむ児童が増え、子どもたちの知識の広がりにも役立っています。

○環境整備事業では、子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めるだけでなく、花や自然いっぱいの素晴らしい環境に保たれています。子どもたちもこの素晴らしい環境を維持しようと、工夫しながら取り組んでくれています。

【来年度に向けて】

これまで続けてきた取組については、地域に根付いてきました。しかしコロナ禍により、中止や延期をせざるを得ない取組もあります。新しい生活様式を踏まえて、来年度以降も地域と連携しながら、継続及び推進を目標に、事業を進めていきたいと考えています。また、協力していただける人材を増やし、新たな計画と組み合わせながら、さらなる充実を図ってまいります。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたり、子どもたちが感動するような体験活動を通した魅力あふれる取組の継続と地域人材の活用・発掘。

【今年度の取組紹介】 ～地域に学ぶ活動事業について～

今年度は昨年度できなかった田植えも実施することができました。裸足で田んぼに入り、一つ一つ丁寧に手で植えることができました。秋に行った稲刈りでは大きく育った稲穂を地域の方に教えていただきながら刈り取りました。稲刈りから1週間後、筐がけにして乾かした稲穂を昔ながらの方法で脱穀しました。千歯こきを上手に回転させるのが難しかったけれど、地域の方に助けをもらいながら、うまく回せるようになりました。地域の方と一緒に活動する中で、米作りの大変さがよくわかりました。また、地域の方に感謝する気持ちも生まれました。出来上がったお米は、給食でも炊飯していただき、地域の方もお招きして全校でいただきました。子どもたちは、生産したものを食べる活動をとおして、食に対する興味・関心が深まりました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルスが猛威を振るう中での取組でしたが、活動自体をなくすのではなく、感染症対策を実施し、地域の方と相談を繰り返しながら事業を実施しました。改めて、学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長の支援にあたり、子どもたちは体験活動を通して多くの事を学ぶということを確認できた一年でした。

今後さらに地域とのふれあいを大切にし、地域の方に助けをもらいながら、自分たちの郷土を愛する子どもたちを育てたいと思います。

【来年度に向けて】

様々な取組は長期的な視野に立ち、事業を継続的に行うことにより大きな成果が得られると考えます。来年度も活動内容の工夫・精選を検討し、本事業を継続していきたいと考えております。

具体的には、佐保台小学校としての学校支援ボランティアの仕組みを定着させ、地域の方に教育活動に参画していただき、教職員と一緒に「チームとしての学校」を創り上げていきたいです。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

子どもたちが地域を知り、地域の人達との繋がりを意識するとともに、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけて成長していける取組の充実を目指す。

【今年度の取組紹介】

本校では、地域交流事業として環境整備の活動を続けてきました。多くの子どもたちとボランティアの皆さんがともに活動できるからです。同じように学習支援事業として図書館整備や「楽しい理科実験教室」「いじめ防止教室」等にも取り組んできました。

今年度新しい取組として「英語でアート」という活動に取り組みました。地域の方の紹介でアーティストを招き、英語の指示のみで絵を描く活動です。6年生の子どもたちに英語の指示のみで街の建物を描くよう指示されます。それも「一筆書き」です。モノトーンの線描きは、思いのほか大きく存在感のあるものになりました。出来上がった絵は、講師の先生が黒い背景の壁面にレイアウトしてくれました。絵の仕上がりもさることながら、「あ、今の言葉はこういう意味じゃないの？」と、子どもたちは、嬉しそうに絵を描き進め、講師先生やボランティアの皆さんと片言の英語で会話をしながら作業を進めていました。

学校と地域がともに企画した豊かな時間となりました。

**【今年度のまとめ】**

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため活動に様々な制約がありましたが、地域の方に「理科実験」や「英会話」を教わる機会を持つことができました。また、「被爆体験」の講師も紹介いただきました。それぞれの活動に子どもたちは興味津々でした。日頃できない活動に深い学びがあるとともに、地域の方々とより深く深い交流の機会を持つことができました。
- ・ 今年度も「左京の森」の花壇に花を植え整備活動を行うことができました。また、学年や委員会活動の時間を活用し、地域の方々に学校の花壇整備や樹木の枝伐採、運動場の整備にも参加していただきました。地域の中の学校としてより深いつながりを感じることができました。

【来年度に向けて】

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数の制限や活動内容の変更が多くありました。対策を工夫しつつ、継続可能な活動を企画していきたいと考えています。オンラインの学習は必要なことですが、人から直接学ぶことは、子どもたちにとって「生きた学び」となります。地域の方々の様々な知識と技を直接学ぶことで、子どもたちを豊かに成長させていきたいと考えています。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域と連携しながら心豊かに生き生きと活動できる子どもを育てる。**【今年度の取組紹介】**

・絵本の読み聞かせ

コロナ禍で、日程の変更を重ねての実施となりましたが、ボランティアの方のご協力で、絵本の読み聞かせを行うことができました。継続して行えたことで、「今日はどんなお話かなあ」「早く来てほしいなあ」と期待をして待つ姿につながりました。ボランティアの方が、子どもたちのために、年齢に応じた絵本を選んだり、お話の世界を楽しめるよう読み方を工夫したりしてくださったことで、言葉の美しさや面白さに気付いたり、お話を楽しみ落ち着いて聞く態度が育ったりしたと感じます。読んでくださった絵本を購入し、絵本コーナーを整えられたことで、興味を持って絵本を手にする機会も増え、子どもたちの生活が豊かになったと感じています。



・おもしろ理科実験教室

地域の方に来ていただき、楽しい実験をしていただきました。風の力でボールが宙に浮いたり、手作りの塩ビ管の大砲の中からボールが飛び出したりして「わーすごい」「なんでやろう」と、子どもたちの声が聞かれました。また、クエン酸と重曹が混ざって炭酸ガスが発生する力を利用してのペットボトルが飛び上がる実験では、途中で化学反応がうまくいかず、ピクリとも動かなくなってしまう、みんなで飛び上がることを願い、心を一つにして様子を見守る瞬間がありました。しばらくして、ペットボトルは無事に空高く舞い上がり、園庭に子どもたちの歓声が響き渡りました。身近なものを使って科学の不思議さやおもしろさに触れる貴重な経験となったとともに、実験の醍醐味のようなものを地域の方と味わうことができました。

**【今年度のまとめ】**

- ・地域の方とふれあう経験が、子どもたちの人間関係の幅を広げました。思いを受け止めてもらえたという経験や見守られているという安心感、優しくしてもらったことへの感謝の気持ちなど様々な気持ちを体験することができました。
- ・専門性に触れることで好奇心や探究心がくすぐられ、子どもたちの意欲向上につながりました。実際に体験し感動することで、知ることの楽しさ面白さを感じることができました。
- ・少人数での開催や時期の変更など様々な対策を講じ、地域の方の理解と協力を得ながら進めることができ、子どもたちの感動体験の場を確保できました。

【来年度に向けて】

- 地域の教育力を最大限に活かせるように情報収集に努め、地域に根差したこども園を目指していきたいと思います。
- ウィズコロナのなかで、先が読めないことを見据えながら、地域の方と子どもたちに経験させたいこと、大切にしたいことを確認し合って共に開催のあり方を探っていききたいと思います。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域の方との連携を図り、子どもたちが様々な人との触れ合いを楽しんだり、体験に参加する楽しさを味わったりする中で、自尊感情や活動意欲を高める。

【今年度の取組紹介】

<女性防災クラブの方による防災紙芝居・消火訓練>

朱雀地区の女性防災クラブの方に紙芝居を通して防災のお話をいただきました。料理のてんぷらからも大きな火事につながるというお話を聞かせていただき、子どもたちは真剣に話を聞いていました。水消火器を使った消火訓練も見せていただき、火事を見つけたらいち早く大人に知らせるなど、地域の方にたくさんのことを教えていただき、安全に過ごせることの大切さを改めて感じた1日となりました。



<朱雀お話の会>

年間を通して朱雀お話の会の方に絵本の読み聞かせをしていただいていた、子どもたちは「今日はどんなお話かな」「もう1回読んで欲しい」と、毎回とても楽しみにしています。朱雀お話の会の方からは「子ども達から元気をもらっている」という嬉しいお話も聞かせていただきました。たくさんの楽しい絵本に親しみ、お話の世界から好奇心を刺激し、想像力や感情を豊かに育てています。

<おもしろ不思議理科実験>

地域で活動をされている『平城ニュータウン楽しい理科実験研究会』の方にお越しいただき、実験を通して理科に触れる活動を行いました。エジェクターの仕組みを使ってピンポン玉やリボンを飛ばしたり、落ち葉掃除に使うブロワーを使ってボールを浮かせたりして、空気の力を学びました。幼児期から「不思議だな」「何でかな?」「どうなってるんだろう」など、興味をもち、様々なことへの関心を深めることにつながっています。



【今年度のまとめ】

昨年度に引き続き、コロナ禍での事業となりましたが、少人数で行えるように学年ごとの活動にするなどの工夫をして計画していた取組を実施することができました。地域の方と様々な活動を行い、触れ合い、温かいまなざしの中で、人と関わる心地よさを味わうことで子どもたちが意欲的に活動する姿につながりました。また、ホームページやドキュメンテーションを通して活動内容や大切にしていることを発信することで、地域と保護者に取組を広めることができました。

【来年度に向けて】

職員間で今年度の取組内容を振り返り、成果と課題を共有していき、来年度の取組に活かしていきたいです。来年度も引き続き地域の方と相談をしながら、子どもの心を動かせるような様々な感動体験ができるよう事業を進め、地域の方の力を活かした取組の充実を目指していきたいと思います。